

野口遵記念館建設 展示基本計画

平成31年3月

延岡市教育委員会

目 次

1. 展示の基本方針の整理

(1) 野口遵記念館の位置づけ	1
(2) 野口遵記念館における展示室（ギャラリー）の位置づけ	1
(3) 展示理念	1
(4) 展示テーマ	1
(5) 対象者	1
(6) 展示構成イメージ	2
(7) 体験展示構成イメージ	3
(8) 展示手法の強化対策	3
(9) 展示パネル紹介内容（案）	4
(10) 展示構成	5
(11) 展示概略図（案）	5

2. 活用計画

(1) 野口遵の顕彰における基本的な考え方	6
(2) 顕彰していく活動について	6
(3) 展示公開活動	7
(4) 交流・サービス活動	7
(5) ネットワーク連携活動	8

1. 展示の基本方針の整理

(1) 野口遵記念館の位置づけ

昭和30(1955)年に建設された野口記念館は、旭化成(株)が整備し、従業員だけではなく広く延岡市民に対して、音楽や舞台芸術、芸能等に親しむ場となるようにとの思いを込めて、当時としては、最新の近代的な建造物として、延岡市に寄贈された施設であります。旭化成(株)の創業者である野口遵翁の名前を冠として「延岡市公会堂野口記念館」として親しまれてきました。

そうした経緯を踏まえ、新たな野口遵記念館は、野口遵の人物像について偏りなく触れ、延岡を拠点として、スケールの大きな事業を展開したことを知ることで、市民のまちへの愛着や誇り(シビックプライド)を醸成し、市民のまちづくりに対する参画意欲を高め、成熟した地域社会の形成に寄与する施設として再整備を行います。

また、活力ある地域を築くために、市内にとどまらず、市外からの誘客にも繋がる、地域の活性化に寄与する施設を目指します。

延岡城跡やカルチャープラザのべおか、内藤記念館等と一体となった歴史文化ゾーンの一翼を担う文化施設であるとともに、観光、産業、教育、福祉といった他の施策分野との連携により集客力を高め、将来にわたって、延岡市のまちの魅力を創造、発信する貴重な財産として長く親しまれる施設とします。

(2) 野口遵記念館における展示室（ギャラリー）の位置づけ

野口 遵の人物像の紹介を中心に、延岡において事業展開するに至った由来や、延岡が工業都市として発展した黎明期の姿などを伝えます。

(3) 展示理念

現在の化学工業の基礎を築いた「野口 遵」の「人となり」に偏りなく正直に触れ、これについて、広く知って貰い、世界に目を向けたスケールの大きな事業を、成し遂げる力を学ぶことが出来るとともに、化学の発展が生活を豊かにすることを認識できる展示とします。

(4) 展示テーマ

日本の化学工業の発展と延岡の発展に大きく寄与した のぐち したがう 野口 遵

大きな夢をもった、一人の事業家「野口 遵」が、当時最先端の化学技術を導入することで、多くの事業が展開され、日本の化学工業が大きく発展してきました。

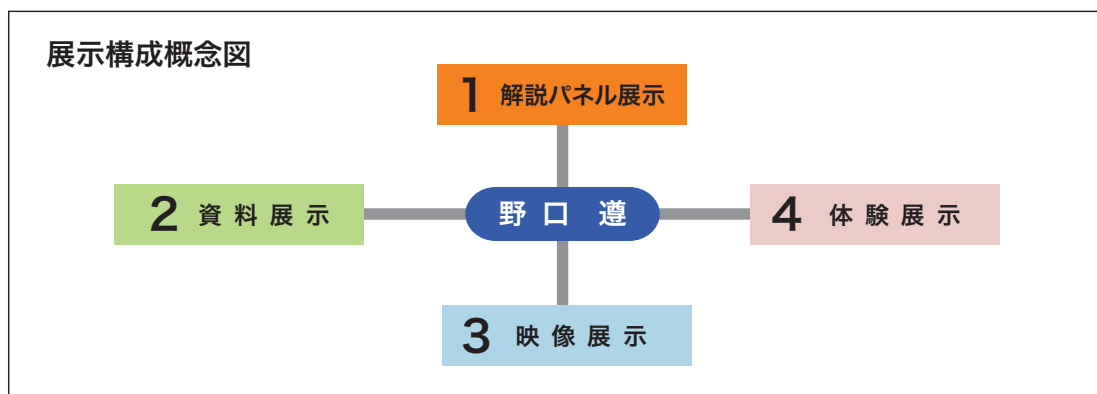
野口 遵の「人となり」と、関連する各種エピソードを学ぶことを通じて、来館した子どもたちは、大事業を成し遂げるために必要な力を実感するとともに、多くの住民の協力のもとで、内藤藩主が長く統治してきた城下町延岡が、工業都市へと生まれ変わったことについて知ることができます。

(5) 対象者

野口遵顕彰会発行の副読本が配布される小学4年生以上を想定した展示内容とします。

(6) 展示構成イメージ

野口 遵の「人となり」を中心に、事業関連資料・ガイダンス映像・体験展示を効果的に配置し、野口 遵自身だけでなく、化学や電気工学という一般の生活に馴染みの少ない分野にも興味をもつことのできる展示とします



1 解説パネル展示

野口 遵の、生誕から亡くなるまでの各種エピソードと、事業の成功に至る過程を、イラストレーションを用いて、子どもたちにも分かり易く伝えます。

エピソードを辿る中で、野口 遵がどのような人物であったか、また、事業を成功に導く中で、どのように人間性が成長できたかを読み解くことができます。

2 資料展示

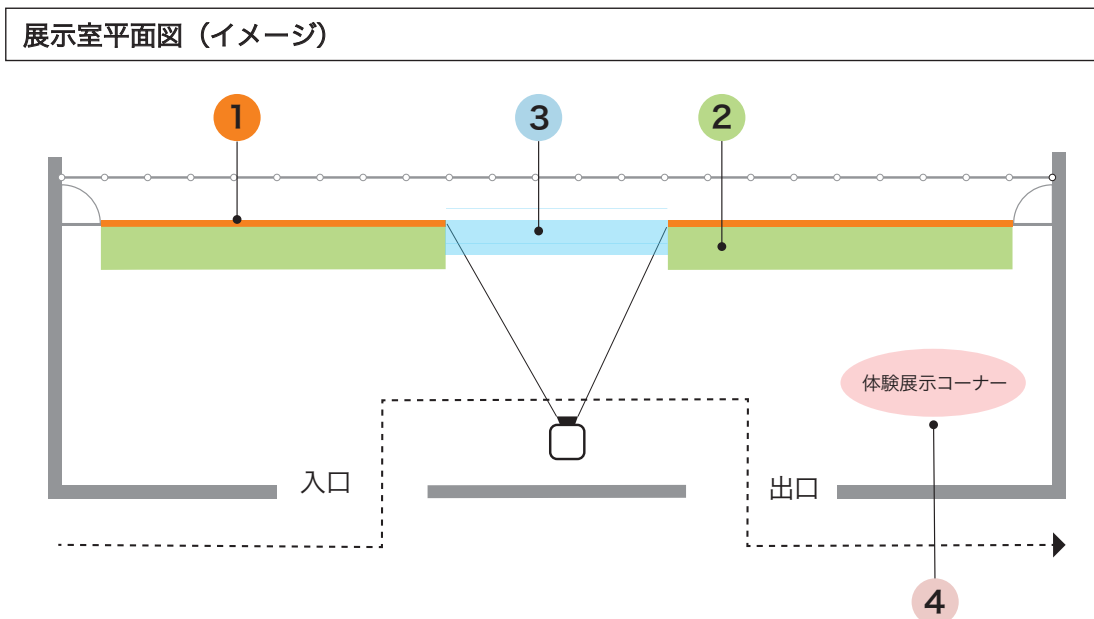
野口 遵の解説パネルの内容に沿って、各種エピソードごとに、関連の深い資料の実物展示やレプリカ展示をします。子どもたちが楽しく興味をもって展示内容を理解できるように、資料には優しい言葉を使った解説キャプションを設置します。

3 映像展示

野口 遵が愛宕山山頂から工場用地を決め、このことがきっかけとなった恒富村の人たちの想いや、城下町延岡が工業都市延岡へと発展した経緯を、子どもの興味をひくような、映像ストーリーとして展開します。工業都市延岡への変遷は、延岡のまちが大きく変貌を遂げた時代でもあり、まちの移り変わりを合わせて紹介します。

4 体験展示

野口 遵が深く携わってきた事業に関連した内容を、備品等により実体験が可能になるよう展開します。体験展示を通じ、化学のおもしろさや電気工学の仕組みについて理解することができるようにします。また、事業の発展とともに、延岡のまちの発展の歴史についても学ぶことができる体験展示を展開します。



(7) 体験展示構成イメージ

体験展示や映像解説を通じ、野口 遵の「人となり」、延岡の発展、化学のおもしろさを、子どもたちに分かりやすく伝え、体験を通じて学べる構成とします。展示に使用する備品は、常に子どもたちの関心を引くように、更新可能なものとし、また、ランニングコストの高騰を抑えるよう配慮いたします。

(8) 展示手法の強化対策

年表形式で展示するのではなく、人とのつながりや、事業を成功に導いた背景には、野口 遵の考え方や性格があり、「人となり」に偏りなく正直に触れ伝えることで、自分達の生活とはかけ離れていない人物であることや、その人物が成し遂げたことは、誰にでもチャンスがあるということを感じることができます。

解説パネル展示では、イラストレーションや映像、アニメーションなどの手法を用いて、よりわかりやすく、より伝わりやすくすることとします。

体験展示では、遊びながら化学のおもしろさや、電気工学の仕組みについて理解するなど、化学の世界に触れることができます。

(9) 展示パネル紹介内容 (案)

活発に過ごした少年学生時代

解説
パネル
展示

活発な少年時代を送り、事業家として大きな成功を収めるための土台づくりの時期であります。多くのことを学び、経験したことが事業家としての成功に導かれています。この先展開していく事業には、この時期に培われてきた知識や人脈が大いに活かされることになります。

資料
展示

【人となりとエピソード】

金沢で生まれたが、生後20日くらいで東京に移り、藩主前田家の長屋で育った。ものに動じることなく、近所ではわんぱく者として評判で、屋敷の屋根の端や、塀の上を平気で歩き、家人を驚かせた。中学時代も変わらず乱暴者として知られた。しかし頭は大変良く、東京帝国大学工科大学電気工学科(現在の東京大学工学部電気工学科)に進学する。

化学者として研究した時代

解説
パネル
展示

いい技術の特許を取得しても、なかなか製品をつくりだすことができずにいたため、責任者の部下を押しつけ、自ら指揮し製品を完成させました。しかし、それ以降の野口遵を取り巻く環境は、不運に見舞われるばかりでした。

資料
展示

【人となりとエピソード】

人に笑われようが、自分の信念を曲げず、石灰窒素の特許の取得に向け、ライバルとなる大財閥にも負けず、買収を行った。なんとか製品化することはできたのだが、かなりの時間も浪費し、製造責任者も意見の違いから離れていってしまった。中々軌道に乗らない中、手掛けていた水力発電所も大洪水に合い工事は中止。野口のつらい研究者時代であった。

実業家として飛躍した時代

解説
パネル
展示

仕事がうまくいかず落ち込んでいるときに、欧州旅行へ行きました。偶然にもアンモニア合成技術を完成させたカザレー博士と出会い、再び仕事に対し意欲が湧き、延岡にアンモニア工場を中心として多くの関連工場を建設しました。

資料
展示

【人となりとエピソード】

仕事人間である野口遵が、肺炎を患い、一時は生きるか死ぬかの状態にまであった。日頃の強気の野口遵も心境の変化があり、悶々とした生活を変えるため、特許の更新も兼ね、欧州旅行に旅立った。そこで、運命の出会いとなる、カザレー博士と出会い、研究所内の強いアンモニア臭を嗅いだ瞬間、これだ！とアンモニアの製造方法に閃いた。

日本の化学工業の未来へ

解説
パネル
展示

化学技術で財を成した野口遵は、今後、化学工業の発展を願い、財団法人野口研究所を立ち上げ、化学技術の研究をする若者を支援できるようにしました。また、朝鮮半島の地で事業拡大できたことに感謝し、朝鮮奨学会にも寄付をしました。

資料
展示

【人となりとエピソード】

個人の財産としての、約3,000万円(今の価値に換算すると1,000億円以上)を日本の将来の為に研究所の設立、朝鮮での奨学金に充ててほしいと、全財産を寄付した。本来は、自分が誤った判断をした時に、自ら損失を補てんするために、蓄えていたものだったという。事業家としての責任を、誰にも語らず覚悟を持ちつつ、常に新しいことに挑戦を続けてきた人生であった。

これらを支える 野口 遵 の人間性

- ・素早い判断力
- ・強い信念
- ・忍耐力
- ・優しさ
- ・気持の切替え
- ・負けず嫌い
- ・決断力
- ・交渉力

旭化成工業の誕生

解説
パネル
展示

戦後、財閥解体企業の1つとして日窒コンツェルンがありました。解体後、総合化学メーカー「旭化成工業」として新たなスタートをしました。

資料
展示

延岡にある「旭化成延岡工場展示センター」を紹介します。

(10) 展示構成

情報を整理した年表展示ではなく、事業の成功に至る過程を丹念に辿るなかで、野口遵の「人となり」に偏りなく正直に触れ、子どもたちに野口遵の素顔について、映像やイラストレーションを駆使し、わかりやすく表現します。

(11) 展示概略図 (案)

① 壁面展示概略図

野口 遵の「人となり」とともに、事業内容や事業を推進するにあたり、さまざまな人との関わりについてグラフィック(パネル展示)で紹介し、やさしい言葉で解説することで子どもたちにも理解しやすく、興味をもって貰えるようにします。



2. 活用計画

(1) 野口 遵の顕彰における基本的な考え方

①野口 遵の現在の顕彰活動について

延岡市民に野口 遵の功績を伝えていくために、小学校4年生でマンガを使った副読本を、中学2年生では、より詳しい内容を記した副読本を、野口遵顕彰会より寄贈を受け配布しています。その他に、野口記念館では、毎年7月に記念館内に設置してある胸像の前で、野口 遵の生誕祭を開催し、顕彰活動を行っています。

②野口遵記念館を活用した顕彰の方針

野口記念館を「野口遵記念館」へ施設名を改称し、新たに再整備を行うことを契機として、延岡市の発展に寄与した野口 遵の功績、さらに延岡の変遷を改めて顕在化し、後世に伝え、市民をはじめ市外からの来訪者に対しても、顕彰活動を推進することで交流やまちづくりの促進を目指します。

(2) 顕彰していく活動について

「野口遵記念館」は、音楽ホールとして、身近に質の高い優れた文化芸術を鑑賞する機会や、自らの文化芸術活動を発表できる施設としてだけでなく、本施設が延岡にある経緯や、施設名にもなっている「野口 遵」について知り、延岡の変遷を後世に伝え、顕彰していく展示機能を基軸に、教育や本施設全体、関連施設との連携を図り、延岡市の魅力づくりに貢献する多角的な活動を目指します。

○野口 遵を顕彰する

野口 遵の人物像や功績について、後世に伝えます。

○まちの変遷を伝える

野口 遵の事業をきっかけにどのように延岡が変貌したかを学びます。

○活力ある次世代の人材育成

野口 遵の功績を知ること、次代を担う子どもたちに、世界で活躍する可能性を伝えます。

○教育連携

野口 遵の人物像や功績、まちの変遷の歴史情報を活用し、学校教育との連携を図ります。

○まちづくりへの参画

展示機能やフリースペース等の本館施設、その他の周辺施設を連携させたイベントなど、市民のまちづくりの参画意識の醸成を図ります。

(3) 展示公開活動

①常設展示

現在の化学工業の基礎を築いた「野口 遵」の「人となり」に偏りなく正直に触れ、これについて、事業関連資料・ガイダンス映像・体験展示等でわかりやすく展示するとともに、来館者が充実した観覧体験ができるように、展示の解説や館内の案内等の、人的サービス(館員やボランティアによる)にも努めます。

②特別展示・企画展示

野口 遵の事業に深く関わった、カザレー博士に関する資料展示など、野口遵と深いつながりのある人物や、事業の企画展示を計画します。

③展示の入れ替え・更新

旭化成の資料室に保管してある資料や、野口研究所に保管してある資料などを貸借し、必要に応じて展示の入れ替えを行います。

展示内容や使用する備品の更新については、シンプルで使いやすく、また、メンテナンスが容易なものなどを選択し、ランニングコスト管理に努めます。

(4) 交流・サービス活動

野口 遵の事業の功績や、延岡の変遷の情報を媒介として、様々な交流や情報発信の機会を創出し、延岡市の魅力づくり、賑わいづくりに寄与します。

①交流支援

本施設のフリースペース等を活用し、野口遵顕彰活動として学習体験プログラムを実施することで、興味喚起や学習の深化、交流促進を図ります。

例) ・ガイダンスムービーの上映 ・イベント企画
・副読本読書会 ・化学実験などのワークショップ

②情報提供サービス

例えば、野口 遵や延岡の変遷に関する刊行物の発行や、HP等を活用した情報発信、市内関連観光案内など様々な情報提供を行います。

③ボランティア活動

展示の解説や館内の案内、イベントサポート等を、ボランティアスタッフに担っていたり、市民参画の活動の場として活用します。

④まちの回遊性

延岡にある他の文化施設(延岡城跡、内藤記念館、カルチャープラザのべおか、旭化成延岡展示センター、延岡総合文化センター)や、歴史拠点と連携した情報提供を図り、観光資源等へ周遊を高める一躍を担います。

(5) ネットワーク連携活動

① 学校教育との連携

小学4年生、中学2年生に配布される副読本を活用した学習活動と連携し、本施設での社会科見学や、学校へのアウトリーチ学習を実施し、若い世代から野口 遵の功績や延岡の変遷を伝え、延岡市民としての誇りの醸成に努めます。

② 市内文化施設との連携

延岡にある他の文化施設と連携し、まちの回遊性や観光の集客力を高め、魅力的なまちづくりを創出していきます。

【連携が考えられる施設】

- ・延岡城跡
- ・内藤記念館
- ・旭化成延岡展示センター
- ・カルチャープラザのべおか
- ・延岡総合文化センター

③ 関係企業・各団体との連携

野口 遵が関わった関連施設や市内団体などと連携をすることで、多様な企画連携を促進します。

【連携が考えられる施設】

- ・旭化成延岡展示センター
- ・野口遵顕彰会
- ・野口研究所(東京都)
- ・曾木発電所(鹿児島県)
- ・金沢ふるさと偉人館(石川県)